

三六災害50年取組みのまとめ

事業実施状況



シンポジウム、パネル展示、防災訓練、座談会など60団体が100の事業を実施 延べ約14,000人が参加した。

各種メディアによる報道



テレビでは4社、ラジオでは3社が計7本の特別番組を放映し、新聞では8紙が関連の特集記事を掲載した。

三六災害50年取組みで得られた主な成果物



防災学習DVD

「演劇的記録 三六災害五十年」
 「土砂災害・水害に備えて」
 （企画・製作 南信州広域連合）



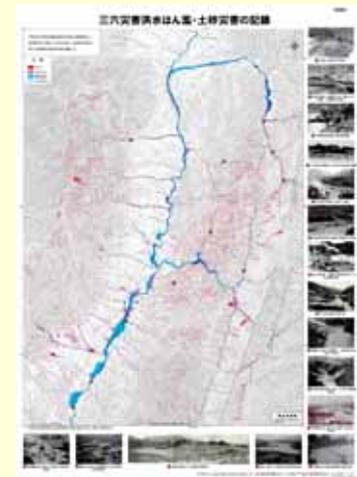
書籍 「想いおこす三六災害」
 DVD 「三六災害から50年」
 （企画・発行 社団法人 中部建設協会）



地域の防災力向上に向けた防災活動の
 手引き（一般向け、学校向け）
 （製作 三六災害50年実行委員会）



三六災害50年リレー式パネル
 （製作 三六災害50年実行委員会）



三六災害洪水はん濫・土砂災害の記録
 （製作 天竜川上流河川事務所）

三六災害50年取組み成果のまとめ

事例1

・ 三六災害50年中川村民の集い

内容

- 1 式典
- 2 三六災害に学ぶ(講演、被災体験談)
- 3 災害から村民の命と財産を守る(国、村の取り組み紹介)
- 4 集いのまとめ(中学生感想発表)

成果

・災害を体験していない(小中学生等)に災害の状況を伝えることができ、情報を共有することができた。



事例2

・ 三六災害伝承事業(豊丘北小学校)

内容

- 1 ビデオ鑑賞
「三六災害から50年 よみがえった伊那谷」
- 2 災害体験談の発表
- 3 校長先生と体験談発表者との座談会
- 4 まとめ(校長先生)

成果

・授業参観日に併せ授業を実施したことにより、家族ぐるみで災害の恐ろしさを認識することができた。



三六災害50年事業として実施した成果のうち、特徴的な2事例を紹介したが、どちらも幅広い年齢層が同時に参加したことにより、家庭に帰ってもう一度話し合うきっかけができたものとする。三六災害を風化させず教訓として継承するためには、世代を超えて伝えることが重要である。このような事業が伊那谷各地で行われた。国、自治体、地域社会や住民一人ひとりが自らの課題として防災に関する知識を深め、地域防災力の向上にあたって大変有意義な活動となった。